



単元 第3学年 Let's Try! 1 Unit 4・5 「I like blue.」「What do you like?」

本単元で育成を目指す資質・能力

自分や相手のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりする力。

領域別目標

「話すこと [やり取り]」

ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

教材研究会

教材：Unit 4 「I like blue.」 単元ゴール：初めて会う ALT の先生に自己紹介をして自分の好みを伝える。

研究協議

①どの子ども単元ゴールに向かって意欲を高めていける単元計画になっているか。



②C 評価の児童を B 評価に上げるための具体的な手立て (スモールステップ) は、単元全体を通して、どのように行っていけばよいか。

～グループ協議より～

- 改善策①単元ゴールの具体的な姿を児童に示す。
- ②ALT の情報 (児童との共通点等) を示す。
- ③聞き手にしっかり反応させる。

～グループ協議より～

- 改善策①モデルとなる児童の姿を撮影して示す。
- ②ジェスチャーなどを使って、何とかして相手に伝えようとする態度を育成する。

相手意識を持たせる

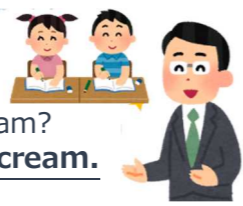


文部科学省初等中等教育局 直山 木綿子 視学官 による指導・助言

授業の導入のポイント

児童とのやり取りを通して、聞かせながら、言わせながら、慣れ親しませる。

T : I like ice cream. C1-san, do you like ice cream?  
C1 : Yes.  
T : Oh, you like ice cream.  
～同じように数名の児童とやりとりする～  
T : C2-san, I like ice cream. Do you like ice cream?  
C2 : Yes...(I like を使うと伝わるのかな...) I like ice cream.  
T : Oh, you like ice cream. Nice!



※言語活動を行って、できていない児童の様子を見取り、適宜練習してできるようにしてから、2回目の言語活動を行う。

既習やこれまでの経験から意味を推測している時に「見方・考え方」が働く。

言語活動を通して資質・能力を育成する

「指導と評価の一体化」を図るためのポイント

- 「知識・技能」は「言語材料を正しく使えているか」を、「思考・判断・表現」は「目的を達成するのに適した内容か」を評価する。3つの資質・能力は一体的に育成されるものなので、どの観点をどの順で評価するかは、指導者のねらいによって設定できる。
- 付けたい力はすぐに育成できるものではないので、複数の単元をつないで長い目で児童を見取るなど、単元構成の工夫や、評価場面の精選を心掛けたい。

研究授業

単元計画 (全8時間 本時3時間目)

※Unit 4 と Unit 5 を1つの単元につなげ、単元ゴールに向けてスモールステップで資質・能力を育成する。

単元目標：2学期から新しく来る ALT のことを理解したり自分のことを伝えたりするために、相手に伝わるように工夫しながら、好きな色やスポーツ、食べ物などについて、尋ねたり答えたりして伝え合う。

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時		
ステージ1 Unit 4 「I like blue.」				ステージ2 Unit 5 「What do you like?」					
Small Talk									
ステージ1のゴールの姿を動画で確認→本時のめあて				ステージ2のゴールの姿を動画で確認→本時のめあて					
ゴールに向けての言語活動				ステージ1のゴールの言語活動		ゴールに向けての言語活動		ステージ2のゴールの言語活動	

目指す子ども像

友達に好きなものについて尋ねたり答えたりできた!

JTE や ALT (現) に好きなものについて尋ねたり答えたりできた!

友達に何が好きか尋ねたり答えたりできた!

ALT (新) に何が好きか尋ねたり答えたりできた!

本時の展開

学習活動

Small Talk

HRT や ALT が好きな色やスポーツについて話すのを聞いた後、質問に答えたりする。



ジェスチャーで、質問する時のイントネーションをスムーズに習得!

Activity①②

床に置いた絵カードを見て、①ローテーションで、②新しいペアを見つけて、好きかどうか尋ね合う。



発音不安な絵カードがあれば全体共有し、ALT と練習する。

中間評価

HRT が撮影した児童のやり取りを視聴し、よりよく伝えるための工夫点について全体共有する。



中間評価で他の児童の動画を見て工夫できていた点を発表させ、「花丸」を貼って価値付ける。

Activity③

タブレットで好きな物の画像を見せながらパディとやり取りする。(別のパディに撮影してもらおう。)



Reflection

パディで動画を見ながら相互評価を行い、それを基に、振り返り(自己評価)を行う。



ICTを活用した振り返り

研究協議

①2つの単元を1つの単元にした良さについて

8時間あることで、言語活動を繰り返して表現に慣れ親しむことができ、伝えて終わるのではなく、会話としてやり取りをしようとする態度が育まれる。

語彙(色、スポーツ、食べ物等)や表現(like を用いる)が共通しているので、スムーズにつなげられ、スモールステップで進めることができる。

児童の姿をゆっくり見取って次の授業へつなげることができる。

授業改善に生かす評価



②本時の中間評価の良さや改善点について

フィードバックポイントを教師と児童が共有できているので、視点に沿って振り返ることができる。

事前に示したポイントから、さらに具体的な工夫について深められれば、児童がより変容できるのではないかと。

中学年で身に付けたい態度が育成できており、高学年での学習につながる。

本時のメインであるタブレットを用いた活動が1度しかできなかったが、中間評価を入れてもう一度行ってもよかった。

Unit 4 I like blue.  
児童が「はじめにALTの先生に自己紹介をして好きなものを伝えたりするよう、おたがいのことをよく知るために、互いに好きなものや好きなものを伝え合う。」

